

IP アドレス変更が統一された CVP サーバ 到達可能原因で解決して下さい

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[問題の要約](#)

[考えられる原因](#)

[推奨処置](#)

概要

この資料に Unified Customer Voice Portal (CVP) サーバを解決する方法を記述されていますオペレーションの到達可能ステータスが後サーバの IP アドレス変更コンソール接続を行った。

前提条件

- CVP Server
- Cisco Unified Contact Center EnterpriseUCCE

問題の要約

統一された CVP サーバの IP アドレスは到達可能として変更され、今リストされています。

考えられる原因

統一された CVP サーバの IP アドレスはローカルでコンフィギュレーション ファイル変更されました。

注: IP アドレスを変更するために CVP オペレーション コンソール 管理 ページを使用して下さい。

推奨処置

既にローカルコンフィギュレーション コンフィギュレーション・ファイルのサーバの IP アドレスを変更している場合、オペレーション コンソールからサーバを削除できますが構成プロパティファイルはサーバに残ります。これはオペレーション コンソールがオリジナルIPアドレスのサーバにアクセスできないという理由によります。オペレーション コンソールに新しい IP アドレスのサーバを追加するとき新しい Property エントリは作成されます。オリジナル設定 プロパティファイルはクリーンアップされないし、手動で取除く必要があります。プロパティファイルを取

除くために支援に関しては Cisco Cisco パートナーがテクニカル サポートに連絡して下さい。

これは正しいプロシージャ サーバのIPアドレスを変更するためにです:

ステップ 1: コマンド プロンプトから、**CVP_HOME \デバイスの\TAC\reimage.bat** 実行して下さい。

呼び出します。統一された CVP 10.0(1) から開始して、バッチファイルは ES1 の一部として **C:\Cisco\CVP\bin\UpdateRMIServerIP\updatermiserverip.bat** で使用できるようにされます。Windowsレジストリおよび **wrapper.conf** ファイルの IP アドレスをアップデートするためにバッチファイルをダブルクリックして下さい。

注: 統一された CVP 9.0(1) およびそれ以前 リリースに関してはステップ 2.を無視して下さい。

ステップ 3.再ホストをライセンス必要とする場合、デバイスから古いライセンスを削除して下さい。

ステップ 4.このデバイスからの CVP サービス全員を再開して下さい。デバイスは CVP からコンフィギュレーション変更を受け取ること準備ができたポスト インストール状態に操作します管理します維持しますプロビジョニングする (OAMP) をあります。

ステップ 5 オペレーションから**および新しいデバイスの導入は**コンソール接続を行いましたり、『SAVE』を選択します。

ステップ 6.再ホスト新しいライセンス必要であれば。